

令和6年度 第1回稲毛区区民対話会「防犯士の活動について」議事要旨

1 日 時 令和6年9月17日（火） 14:00～16:00

2 場 所 稲毛区役所2階 講堂

3 出席者 区民参加者：防犯士9名

稲毛区：区長、副区長、地域づくり支援課 課長、他3名

4 議事要旨

1 令和5年度区民対話会での確認事項について

区 長：はじめに、昨年度の区民対話会で出た要望事項について、結果を報告する。

①防犯士Jより、防犯士養成講座で使用していた■■■■先生の「すぐできる60歳からの自宅防犯ワザ100」について、貸出できないか、という要望があった。

貸出について■■■■先生及び出版社に確認したところ、区役所外に持ち出しての貸出はご遠慮いただきたいとのことであった。区役所内での貸出はできるので、閲覧したいという方がいれば区役所に来ていただければと思う。新刊も出たので、ご確認いただければと思う。

防犯士A：購入した。

課 長：何か違うところはあるのか。

防犯士A：漫画 Ver. になっている。

防犯士F：ネットで購入し、会館に置いている。

防犯士A：■■■■町会も置いている。

集会所に置いて貸出することは問題ないか。

課 長：図書館とか貸し本業は許可を取って行っていると思われる。

防犯士A：■■■■町会で購入したものを■■■■町会の会員が読むのはどうか。

課 長：友人間の貸し借りはあるので、恐らく問題ないかと思う。

区 長：②防犯士Kより、稲毛区として防犯ののぼりの作成を検討してほしい、という要望、③防犯士Lより、防犯士養成講座で紹介のあった物品は高価なものが多いため、購入に対しての補助制度を検討してほしい、という要望があった。

②③は同一の回答となるため、一緒に回答するが、予算の都合上、現状では対応が難しい状況である。

代替案にはならないかもしれないが、予算措置が難しく、例えば、ネクストラップに防犯士という文字とロゴマークを記載したものを作成する、というのはあまりお金を使わずに、作成できるグッズの1つかと思う。

講座の中で紹介のあった物品はどれも防犯に役立つものであるため、検討いただきながらも、まずは地域に講座の内容を広めてもらいながら、地域の防犯力を高めていただきたいと思います。

今回は要望に応えられないが、引き続き地域安全課に要望をするなど、検討していきたいと思う。

2 防犯士の活動

(1) 1年間の活動状況

防犯士B：学んだことを高齢者向けに毎月講座をやっているのですが、新しい情報・気をつけることがあった際に、防犯について案内している。

「防犯士養成講座で学んだことを地域住民に向け、講座を実施する」ということについてはまだ実施をしているわけではなく、学んだことを地域に向けて講座を行いたいという想いで書いた。

防犯士A：昨年度は知識編を受講し、今年度は実践編を受講している。

町内会で毎月1回防犯部がパトロールをしているが、パトロールの前に講座で学んだことを共有し、通行人にあいさつをしながらパトロールを実施している。

講座で先生からごみを拾うのとあいさつをすることは一緒にしてはいけない、防犯を目的としているのであれば、人をちゃんと見るように、というお話があったため、パトロールをしている中で、服、顔、靴など担当を決め、怪しい人を観察している。

街灯が切れているかを含めて見回るため、夜の活動になってしまうが、あいさつしながら活動を行っている。パトロール隊であるため、あいさつをすることもおかしいことではなく、犯罪等が起きそうな箇所を探しても変に思われない。

防犯士C：昨年度知識編を受講し、今年度は実践編を受講している。

圏域の自治会で月に2回防犯パトロールを行っているところがある。

警察署にも立ち会ってもらい、パトロールをしている。

知識編で学んだことを自治会の防犯部とのミーティングの中で伝えたり、パトロールの中で、講座で学んだ注意点（自転車のバッテリーを必ず取るなど）を情報共有しており、自治会の防犯部の方々からも、新しい着眼点を学んでもらっている。

先週のパトロールでは15名ほど参加したが、3つのグループに分かれ、注意すべき点や見る視点を情報共有しながら実施した。

課長：防犯士Aに質問で、防犯活動だと怪しく思われないというのはどのような意味合いか。

防犯士A：例えば、犬の散歩の際に、声掛けをしても怪しく思われるだろうが、防犯部でベストを着用し、ライトを持ってあいさつをしているため、怪しく思われにくい。声掛けをするわけではないが、注意箇所の情報共有をしたりしている。

防犯士A：防犯士Cに質問で、警察署が月2回のパトロール両方とも同行してくれているのか。

防犯士C：事前に年間計画を渡し、忙しい時期は来れないが、それ以外は来てもらっている。

近くの施設の駐車場で移動交番も実施されるため、現場で相談を受けてもらったり、パトロールに同行してもらったりしている。

防犯士A：警察署のどこに来てもらっているのか。

防犯士C：生活安全課である。

私がパトロールに参加する前から、自治会と警察署のつながりがあった。

現在は生活安全課といろいろなコミュニケーションを取れるようになったため、自治会の定期会合とか地域ケア会議に参加してもらい、最近の犯罪の動向とかを話してもらっている。

防犯士E：移動交番、毎月2回、第2・4金曜日に移動交番のコースで会館に寄ってもらい、講話をしてもらっている。

町内の役員が防犯帽子を被り、個別に講話の前後で防犯パトロールを実施している。

防犯士A：移動交番とはなにか。

課 長：ルートが決まっており、月に2回くらい警察署が実施している。地域の実情に沿った情報発信を行っている。犯罪が多発している地域などで開催している。

地域によっては、3，4人しか人が来ないこともある。

防犯士E：講和のみでは参加者は来ないため、移動交番の際に、ボッチャ教室等の楽しみを開催し、人が集まるようにしている。

課 長：防犯士Gが先ほど担い手が不足していると言っていたが、何人くらい参加しているのか。

防犯士G：ほとんどが70代である。もともとは15，16人いたが、現在は9名のみ。

若い人に声をかけるが、なかなか仕事を理由に断られてしまう。

私自身、過去に仕事をしながら活動を行っていた。

仕事が終わる次第、21時とか22時から、空いている時間を見つけて実施していたため、今の若い人たちもできないことはないと思うが、なかなか引き受けてもらえない。

（２）防犯活動での応用

区 長：実際のパトロールなどで知識を活用していただいた、また、今後活用していきたいと考えている事例についてご紹介いただきたい。

防犯士I：という団体を立ち上げた。防犯活動に活用していくには、防犯に関する犯罪予防、犯罪対策に関するミニ防犯教室や地理を生かした合同パトロールの実施を考えている。

防犯士E：町内会の特徴として、礼拝所がある。

住んではないが、金曜日に、千葉市、四街道市、佐倉市、船橋市、習志野市とか各所から集まってくる。

令和6年9月13日（金）NHKのネタドリという番組で自動車盗難の特集があり、町内会の自動車盗難、自転車盗難の防犯パトロールを外国の方と8年前から実施しており、取材を受けた。

令和6年8月24日（土）に警察署に防犯講和を実施してもらい、防犯パトロールを実施した。警察署から5名、から7名、町内会の理事・組長・役員、子どもが参加し、42名を2班に分けて防犯パトロールを実施した。

また、以前、警察志望の大学生が数名参加してくれたり、警察署の剣道教室の親子が参加してくれたこともあった。

先ほど、役員がいらない、若い人も仕事に出ている、という話があったが、役員がやらなきゃいけない、という垣根は取ったほうが良い。

参加してくれた子どもが友達を連れてくることもある。

また、参加してくれたことを褒めると継続的に活動に参加してくれるようになる。

小学校の体育館で、防犯講習会を開催し、警察署の生活安全課や交通課に講和をしてもらっている。11町内自治会、200名以上の参加者がいる。

開催は金曜日の19時頃から1時間半くらい実施する。

また、講座をたくさん開催しても、頭に入らなくなってしまうため、回覧に一口メモを掲載

し、広報も行っている。

防犯士H：生活支援コーディネーターとして出来そうなことは何か考えたときに、地域のサロンや高齢者の集まりによく顔を出すため、詐欺の話や認知症の話とかトピックは固まってしまうが、昨年度講座で学んだことや、警察からもらった情報をお知らせしたい。

ただ、たくさん時間をもらって実施すると、飽きてしまうこともあるかと思うため、少しずつお話をしていければと思う。

町内会の取り組みは担当の圏域であるため、よく耳にするが、地域の取り組みを別の地域に共有し、橋渡し役になればと考えている。

防犯士A：防犯士Eが話していた防犯講習会では200人くらい参加しているとのことだが、どんな場所で、どのように声がけを行っているのか。

防犯士E：中学校区の会議で防犯講習会を企画し、各町内に流している。

警察署がくれる防犯グッズ等の配布も行っている。

毎年実施するように恒例化すれば人は集まってくると思う。

講座は小学校のスクリーンを借りて、防犯のビデオを放映したりする。

課長：季節はいつ行っているのか。

防犯士E：11月である。

防犯士A：会長に言うておく。

防犯士E：警察署は喜んで参加してくれると思う。

防犯士A：余談であるが、敬老会の冒頭に詐欺の講話を警察署にお願いした。民生委員の方が警察署とコンタクトを取ってくれたが、なかなかつながらず、敬老会当日も遅刻し、10時からお願いしたが、11時くらいにきたため、演目を前後させたり大変であった。

課長：先日、生活支援コーディネーターの皆様の会議の間でもお話いただいた。

防犯士A：詐欺の講話はよくわかったが、連絡が取りづらい印象を持っていた。

課長：むしろ出たがっていて、場所を探しているくらいである。

防犯士E：去年、防犯のモデル地区ということで、警察署から電話詐欺防止のアタッチメントをモニターで10件、半年ほどお借りできた。使用者からは、欲しいという声もあった。

防犯士H：今年度は警察の方が地域に出向くことが多いと思う。

防犯士F：月1回サロンを実施しているが、今月は警察署の生活安全課の方に詐欺の話をしてもらう。

防犯士D：コミュニティセンターにも移動交番は来ている。

防犯士I：犯罪予防・犯罪対策について皆さんが実施しているものとは違い、皆さんが活動していても、犯罪は無くならない、詐欺は無くならない、これがなぜなのか、というところに重点を置いている。

例えば、パトロールをしていて鬱蒼としている家にお声がけし、お年寄りが1人、ベランダに登れる木がある場合などは、防犯診断を行い、注意喚起したり、家族に連絡して、実際に、危ない木を無料で切ったり、ごみ屋敷など、ご近所で苦勞されている場所について、本人や家族の同意を得て、軽トラックでごみの運び出しを行ったり、環境整備等を行っている。

ただ、公に活動を公表すると、問い合わせが殺到する恐れがあるため、内緒で活動している。

私の町会について、私は以前から防犯意識が高く、防犯カメラの設置に対して、町内での反

対意見が多かったが、パトロールする人がいないため、カメラで24時間監視したら安心である、カメラを設置すると負担も減るよ、と伝え、最終的には住民投票で設置に至った。

防犯になにが必要なのか、なにが足りないのか、というのを、集会とか防犯講座に来ない方々に積極的に声掛けを行っている。

民生委員もやっているため、情報収集をしながら裏から支援を行っている。

表で活動されている方は華々しく行ってもらい、なにが足りないかはわかっているため、裏からフォローしていく。

昨日も、町内で埼玉ナンバーの車両が止まっていると地域住民から通報を受け、使用者を調べたりした。

先ほどお話があった生活安全課の講習の件も、ぜひとも実施してもらいたいし、言ってもらえればこちらから要請することもできる。

防犯士A：現在の活動はボランティアで行っているのか。

防犯士I：事業としては、支援をしてもらい、装備品を揃えている。メンバーは7名、支援してくれる方が20数名である。

先月も町内会で詐欺の講習会を実施したが25名ほど参加した。新型の詐欺防止対策を警察署に配ってもらった。

区 長：先ほど防犯士Eより話のあった小学生の参加の件だが、昨年度の対話会の際にも、大学生の防犯士Mからも小さいときに参加すると、それが思い出となって、自分たちも頑張っていかなきゃいけない、という意識が芽生えるというお話もあったため、ぜひとも実践してもらえればと思う。

（3）連携

区 長：防犯士養成講座は様々な団体間のつながりを作っていくということを1つの目的として実施している。活動してみて気づいたことについてご意見を伺いたい。

防犯士D：チラシを作成したい、講座を実施したい、と思うが、コミュニティセンターとして警察署に講和を実施してもらったこともあったが、人が来なかった。

町会にもチラシを配ってもらったが、警察にかたいイメージがあるからか、人が来なかったため、町会と連携したイベント、防犯関連の映像の放映を行いたい。

せっかくのコミュニティ施設であるため、窓口になれることをしたいが、何をしたら良いのかわからない。

防犯士E：先ほどの防犯講習会は中学校区主導で各町内会に人集めをしてもらっている。

個々にではなく、元締めから人を集めてもらうようにしている。

防犯は生活安全課でDVDをいっぱい持っており、交通事故関係は幕張の免許センターの交通安全協会で貸出を行っている。

区 長：一緒になにか出来るよ、とかあれば、教えてもらいたい。

せっかく開催したのに、人が集まらないというのはもったいない。

課 長：あんしんケアセンターはいろいろなことをやっていると思うが、どのように集客を行っているのか。

防犯士C：圏域では、民生委員の定期会合にお邪魔し、まずは民生委員の方々に警察署の方

から防犯に関する講義を行ってもらい、民生委員はお宅を回っているため、そこでお話をしてもらったり、チラシを撒いてもらい集客している。

地域ケア会議を定期的開催しており、警察署や自治会の役員、アルソック等に参加してもらい、警察からの防犯に関する講義や犯罪の実情のデータ、アルソックは地域に防犯ブザーとかを安く設置してもらっているため、地域でどのような犯罪が起きているのか、どのような問い合わせが来るのか、情報を提供してもらっている。

警察署からも講義ができる場所の提供についてお話があり、体操教室や茶話会を使って、講義をしてもらっている。

定期的開催している認知症の声掛け訓練にも警察に来てもらい、お声がけの方法から、実際に警察署にはどのように繋がればいいのか、認知症の方々を犯罪から守るためにどのようなことをすればいいのか、ということも講義してもらっている。

区 長：そのような会議にコミュニティセンターとかに参加してもらい、このようなことをしたい、と相談することは出来るのか。

防犯士C：可能である。

区 長：このようなことも地域間の連携になる。

地域の困りごとということで活動している人がやれることをしっかりやってもらう、という意味では目的にもあっていると思う。

防犯士D：ぜひお願いしたいと思う。

防犯士A：防犯という言葉が漠然としすぎていて、興味がないと思われてしまうのかと思う。

区 長：実際に聞いてみて、大切なことなんだな、ということもすごくある。

防犯士E：「防犯講話」というとまた同じ話だと思われてしまう。

今流行りの詐欺について話してください、と警察署にお願いしている。

テーマを付けることで聞いてみようかな、と思ってもらえる。

防犯士A：その通りであると思うが、そこに来てもらうまでが難しい。

防犯士D：コミュニティセンターで開催した際も、このテーマに特化しましょう、と言われて、チラシを作製した。

防犯士H：先週、NHK の番組を拝見した。外国人の車の盗難の内容であったが、稲毛区はヤードが多くあると知った。

埼玉県の川口市でクルド人が増えて犯罪が多発し、地域住民との連携もうまくいかず、暴れ放題やっているというニュースをみたが、これから先、外国人が増えていく中で、そのような問題も増えてくると思う。外国人に限らず、時代がどんなに変わろうとも、顔の見える関係づくりを地道にしていくのが一番大事だと思っている。

地域貢献をしたいという企業がいる、という話だが、防犯士講座の知識編に企業が参加している。定期的に防災の会議を開催しているが、防犯のことも地域全体で考えていかなきゃいけないと思った、と伺った。

からも地域貢献したいと聞いており、地域貢献したいと考えてくれている企業がたくさんある。そのような企業の力もお借りしながらと思うため、地域と企業を繋げていかないと考えている。

区 長：地域にいろいろな人が住んでいて、働いていて、そのような人たちが地域を作っていくんだ、

という意識の中で、自分が出来ることをしっかりとやっていく、連携していく、というのが一番目指すべきところである。そのようなことを考えていただいていることはありがたいと思う。

行政は行政の立場でやれることがあると思うため、考えていかなければならない。

課 長：生活しているなかでヤードが目に入ることはあるのか。

防犯士H：意識するとかなりある。

区 長：どのような方が働いているのか見えないのか。

防犯士A：中国人の方が多いと思う。

防犯士E：あるヤードの話だが、コンテナのトレーナーが回収しに来た際に、ヤードの人から運転手がチップをもらい、席を外させた。

何を積んでいるのか知られたくないから、席を外させたのではないか、と思う。

防犯士I：最近だとレンタルのコンテナを利用してやっている。

稲毛区だと、植草駐車場のところで、中国系ベトナム人が朝から20人くらい集まっている。声をかけても、関係ない、と無視されてしまう。

どんどん集まってきてしまうからどうにかしたいが、声をかけるしかない。

防犯士E：ヤードの高さは規制できないのか。

副 区 長：千葉市で金属スクラップヤードの条例を作成しており、高さ制限も設けているはずである。

防犯士I：若葉区の土地で不法占拠されているのに何も出来ず、違法状態が続いているところがある。条例で罰則がないため、そのままになっている。

課 長：千葉市では2年前に全国初の罰則付きの条例を制定している。

区 長：来年、防犯士養成講座の予算がついて実施する際に、企業の参加も検討する。

そのなかで、このような会議にも参加いただき、連携に繋がればと思う。

防犯士E：先月下旬に、町内で宅地侵入・露出があった。

防犯対策がされていない家であり、すぐ隣の企業も夜間は誰もいなくなってしまうところのため、出来ることは早めにやるように、防犯士養成講座で学んだこと等を教えた。

（４）活動していく中での課題

区 長：地域で活動している中で様々な課題が見えてきたかと思う。地域での活動をより効率的に進めていくためにご意見を伺いたい。

防犯士C：自治会によって、防犯カメラを毎年チェックしながら更新しているところと、まったく興味のないような自治会もある。

防犯カメラ1つとっても、自分の自治会の地域だけやっても、周りから入ってこられるため、周りの自治会と連携を取りたい、という相談を受ける。

お声がけをしているが、防犯カメラの設置の情報を知りたい、というところもあれば、予算がないから、というように温度差がある状況が見受けられる。

防犯は1つの自治会だけではなく、稲毛区全体で取り組む内容だと思うため、関心の低い自治会とどのように連携をとっていけば良いのか。

防犯士A：先ほど防犯士Iより皆さんからのアンケートを取ってカメラを設置したと話があったが、穴川は平穏に暮らしていて、犯罪にあまり関心がない印象である。

犯罪情報などは口伝えでも広まれば、防犯意識は高まっていくかと思う。

アンケートを取って皆さんで付けよう、とならないと、費用が掛かることに対して反対が出てしまったりする。

防犯士 I：防犯カメラというと抵抗感が強いので、高齢化で人がおらずパトロールができない、天候にも左右されない、町内に入ってきた人が分かれば、犯罪を起こした人が分かる、というところから説得して、問題提起してアンケートを実施したら、納得してもらえた。設置費用も 1 件あたりの負担も割出し、何年持つのか、を伝えたら、すんなりと了承してもらえた。

防犯士 A：録画が繰り返されるタイプのものか。

防犯士 I：その通りである。メーカー品で役所も推奨しているものである。

モニターを付けると嫌がる方もいるため、警備会社に委託し、必要な時は警察から警備会社に依頼しデータを取るようにしている。

町内の皆さんに、カメラが正常に稼働している場合、緑のランプがついているため、散歩の途中にでもちゃんと稼働しているか確認してくれ、と依頼したところ、確認に協力いただけている。

防犯士 A：警備会社と契約をしているとのことだが、基本費用がずっとかかるのか。

防犯士 I：設置後は電気代だけである。

あとは、カメラのデータを出すときにいくらか手数料を取られる。

山王町の事件のケースとか、稲毛区では 4 年連続で殺人事件が起きていることを皆さんに紹介し、防犯カメラや皆さんの目が必要であることを普段から声掛けしていくのが良いと思う。

防犯講座とかは同じ人が聞いているだけで、来ない人が問題である。

来ない人に声掛けをしていくことが大事。

課 長：身近に感じていないと、意識が薄れてしまう。

防犯カメラを設置することの利点を伝えたりするとうまくいくかもしれない。

防犯士 E：防犯カメラはいいものであると思うが、設置はしていない。

購入の初期費用が大変かかる。町内会費全体に係る負担が大きいという声をよく聞き、数年で機材の更新も必要である。他県からのデータの照会があった場合でも、管理者が立ち会わなければならない、他の人には見せられない、と負担ばかりであると思う。

課 長：メリット・デメリットがある。

区 長：いきなり全自治会と連携するのは無理だと思う。

1 つ 1 つ身近なところから、できることからしていく、という意識のもとに活動してもらい、周りの町会が高い意識を持ってもらえる取り組みをしていくことになると思う。

第 2 回の対話会では、1 期生と 2 期生が集まって意見交換をしてもらう。

予算が付けば、3 期生も誕生する。取り組んでいく人が増えていくことによって、地域の輪が広がり、絆みたいなものが深まっていくと思う。

防犯士 F：防犯に興味を持つようになり、講座で学んだことをサロンで伝えている。

また、千葉県警の HP に様々な情報があったり、安心安全メールの存在を、講座に参加したから興味を持って知ることができた。

勉強会をすることによって、今まで知らなかったことを知って興味を持つ、そういう繰り返しかと思う。

スタッフが 2 期生として講座に参加しているが、講座の中で、ある自治会の方が、防犯カメ

ラを考えているがよく分からない、と話しをしていたと聞いた。

防犯カメラを実際に導入している自治会もあり、情報を吸い上げて、繋ぐことができる。
ネットワークの繋がり場にもなっているため、ぜひとも続けてもらいたい。

4 防犯意識の向上

防犯士D：講座に出ているときは防犯意識が強いが、終わってしまうと意識が薄れてしまう。

移動交番の時も、コミュニティセンター利用者は多いが、興味を持たず、警察の方がデモン
ストレーションをしているのに、横目で見ただけ、という状況で声をかけ、誘導している。

意識を持ってもらうにはどうしたらいいのか。

せっかく、ロビーがある、大きな部屋もあるので、皆さんと連携する中で、アイデアをご教
示願いたい。

区 長：あんしんケアセンターも定期的にいろいろなことを実施しているが、参考になる話があれば
伺いたい。

防犯士C：週に1、2回は千葉県警や消費生活センターのHPに、詐欺被害の情報が出ているため、印
刷し、体操教室の参加者や民生委員に配っている。

会議で詐欺被害のチラシを配ったり、詐欺の話をよくするため、「詐欺の防犯士C」というあ
だ名がついている。

実際に、私のスマートフォンにきた詐欺のメールや電話の内容を見せて、注意喚起をしてい
る。

最初は自分には関係ないと思われていたが、こんな詐欺被害があるのか、と思ってもらえて
いる。

天台圏域ではオレオレ詐欺が3件発生し、1件は捕まったが、2件は捕まらなかった。重点
的に詐欺グループが回っている地域があり、[REDACTED]警察署と一緒にパトロールを実施し、被害
は少なくなっている。

いろいろな防犯についての情報を定期的に出すと、手に取って見てもらえる。

また、実際の詐欺メールを見せることで、スマートフォンの使い方を教えて、と言ってもら
えて、情報の見方や収集方法を教えており、地域の方々の意識付けにも関わっていると思う。

防犯士F：移動交番が何をしているのかが分からず、スルーしてしまう。

移動交番が何をしているのか、ということ載せてあげると来るのではないかなと思う。

防犯士B：移動交番を身近に感じていない人が多い。

移動交番でも地域のトレンドの犯罪をアピールしてもらえるといいなと思う。

防犯士E：移動交番だよりもどこに来るのが書いてある。

防犯士F：[REDACTED]コミュニティセンターには移動交番はいつ来ているのか。

防犯士D：不定期で来ている。当日に連絡が来ることもある。

コミュニティセンターで防犯のイベントを実施する際は、チラシの配架をあんしんケアセン
ターにもお願いしたい。

区 長：地域の拠点施設であるため、活用してもらえると良いと思う。

5 その他

区 長：皆さんから事前にいただいていた質問事項について回答させていただく。

①不法投棄禁止の看板には警察署の記載があるが、警察はどの程度関与してくれるのか、という質問を防犯士Aよりいただいた。警察署の生活安全課に確認したところ、警察の関与については、状況に応じてケースバイケースで対応している。

不法投棄をしている人の特定が難しい場合は、関与が難しいが、市から指導しても何も改善されないなど、不法投棄した人が判明している場合は、事件として取り扱うこともある、とのことだった。

②なぜゴミステーションに防犯カメラを設置できないのか、という質問を防犯士Aよりいただいた。

ゴミステーションに防犯カメラを設置することはできる。

千葉市でも、不法投棄監視カメラを貸与する事業がある。

設置の際は、事前に設置場所等に係る協議が必要となるため、まずは、花見川稲毛環境事業所に相談してもらえればと思う。

③稲毛区は、防犯士養成講座の受講者にどの程度、防犯に役立ってもらいたいと思っているのか、という質問を防犯士Aよりいただいた。

防犯士A：防犯を皆さんに学んでもらっているが、それはなぜか聞きたい。

区 長：防犯士養成講座を実施した目的として、防犯知識や防犯対策を学んでもらって、講座を受講した皆さんが、地域で犯罪の未然防止活動を展開することで、犯罪をさせない地域環境づくりに取り組んでもらうとともに、地域の様々な活動団体の連携促進を目指すことを掲げております。

防犯とか防災というテーマは皆さんにも分かりやすいものであり、自分たちで何をすべきか、ということを考えやすい。

地域の皆さんでまちづくりをしていくことが求められている中で、入っていきやすいテーマだと思っている。

今、希薄化となっている地域の絆ができやすいものであると思っている。

まずは、1つの取り組みを実施することで、プラットフォームが出来やすく、これからの高齢者社会に向けて、ものすごく必要な取り組みになってくるかと思う。

地域の絆が出来ること、防災でも役立っていく。

人と人との絆が出来ると、助けてあげなきゃ、と思うようになる。

これがこの防犯講座の目的の1つである。

防犯士A：例えば稲毛区でこういう犯罪が多いから、防犯士が必要だ、という実例があったわけではないのか。

区 長：防犯士養成講座を開始した際は、特殊詐欺被害が千葉市で稲毛区がナンバーワンであった。

防犯士A：それで防犯に対して実施したのか。

区 長：きっかけである。現在は、中央区、美浜区、花見川区、稲毛区、若葉区、緑区の順となり、下から3番目となった。

防犯士D：若葉区は高齢者が一番多い区である。若葉区が一番多いと思っていた。

課 長：高齢者が多いというよりは、人が多く居住しているからと警察の方から伺った。

ももとは稲毛区が特殊詐欺被害数が1位であったことがきっかけであるが、防犯・防災は自助共助の最たるもので、皆さんが結び付きやすい、興味関心の高いものであるため、防犯士の皆さんに活動してもらう中で、連携の輪が広がっていけば、というのは1つの狙いである。

区 長：令和5年度は詐欺だけでも、稲毛区だけでも31件、5,260万円の被害が出ている。

防犯士A：そういう実例が出ていると、自分事として考えることが出来るのではないかなと思う。

身近な犯罪を区から発信してもらえれば身近に考えてもらえると思う。

区 長：発信していくことは大事であると思う。

検討する。

防犯士A：様々な依頼が区役所・市役所から降ろされてくる。

行政は投げて終わりか、と思うことがある。

降りてくるからやらなきゃいけない、となるが、なぜやるのかが分かると動きやすいと思う。

課 長：行政が枠組みを作ってしまうと、やらされている感じが強くなってしまう。

本当は皆さんの困りごとを皆さんでやっていくほうがやりやすい部分もあるかなと思う。

区 長：自助共助が大切だと行政は言うが、なんのために必要かを伝えていけないといけない。

地域の実情を教えてもらって、行政は行政でやらなきゃいけないことを考え、一緒に頑張っていくことが一番大事だと思う。

防犯士A：不法投棄の件も、いつ不法投棄されているのかが分からない。

それが多発している地域が■■■■町会となっているが。

区 長：警察の対応はそれでいいのか、となってしまう。

防犯士A：結局、あの看板を作っているのは誰なのか、市役所、警察署の記載があるのに、その本人たちが捕まえられない。

課 長：自治会が設置したい、警察の名前も入れさせてくれ、ということで設置したものがあるという話を聞いたことがある。あまり警察が不法投棄防止看板をここに、とは言わないと思う。

防犯士I：警告の意味で警察はなにも関与していない。

副 区 長：不法投棄が行われている場所は民地なのか。

防犯士A：ゴミステーションである。防犯カメラ設置中と記載があるが、実際に置いてない箇所もある。

防犯士I：抑止力の効果がある。痴漢とか不法投棄とか犯罪だけで見ると関係性が薄れるが、防災と犯罪の関係性は何か分かるか。

防犯士A：みんなが逃げた後の空き巣とか。

防犯士I：その通りである。犯罪者は災害が起きたってだけで集まってくる。

警視庁の部隊は秘匿部隊ということで、大勢で現地にいく。

ただ、結局警察も声がけとかしかできない。

だから、自主防犯、自分の身は自分で守る、災害時は誰も助けてくれない、自分たちのまちは自分たちで守ろう、そのために何が必要か、そこから入っていくと防犯への関心が高まっていく。

防犯と防災は切り離せない。普段備えていれば強いまちになる。

■■■■コミュニティセンターに移動交番が来ます、とかではなくて、例えば護身術について「痴漢に襲われたらどうしますか、教えます」という文句のチラシを作ると関心を持ってもらえると思う。防犯講習会を実施しても人は来ないため、インパクトのある、為になる講習会を実施すると人が来る。

防犯士A：防犯イベントのような事業をする時は、コミュニティセンターの費用か。

防犯士D：コミュニティセンターというより、指定管理の会社の費用である。

防犯士A：ぜひそのようなイベントを実施してもらいたい。

防犯士I：防犯は幅広いテーマである。現在は、SNS上で、犯罪者で情報共有し、集まってくる。

多角的な考えで見えていくのが、これからの犯罪対策であると思う。

区 長：皆さんと一緒に暮らしやすいまちづくりを行っていきたい。

皆さんの取り組みに感謝しておりますが、より一層またよろしく願いたい。

次回、2月に区民対話会を予定しているが、1期生・2期生の意見交換を予定しているため、より多くの皆さんに参加してもらい、意見を伺いながら、稲毛区が安心安全なまちになりますよう、願いたいと思っている。